

輝く介護

第21号

2011年(平成23年)
3月30日発行

特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構
連絡事務所 〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内
Tel : 0467(46)0788 Fax : 0467(46)0059
<http://www.kamashien.com> e-mail : jimu@kamashien.com

鎌倉市認知症
地域支援フォーラム

認知症になっても地域でその人らしく暮らすために

去る1月29日(土)10:00~15:30、鎌倉市福祉センターにおいて、鎌倉市主催の認知症地域支援フォーラムが開催されました。この催しは、急速な高齢化社会を迎え、それに伴って認知症を発症する人も増える状況下において、認知症になっても地域で安心して快適に暮らしていけるまちづくりを目指して開催されました。当かまくら地域介護支援機構も共催団体として事業運営の一端を担いましたので、当日の様子を紹介します。

◇当事者の理解と地域のネットワーク作り

当日は177名の市民や事業者の参加がありました。午前の部では、オープニングメッセージとして、若年性認知症の佐藤雅彦さんから当事者の心境が語られ、参加者の共感を得ていました。また、犬の散歩の際に地域の見守りをするワンワンパトロール(川崎市)や、かまくら認知症ケア研究会



の「鎌倉散歩」などの取り組みの事例発表がありました。午後は、講演『認知症になっても大丈夫なまちづくりとは?』の講師、永田久美子さん(認知症研究センター主任研究員)から、認知症の人の暮らしを支える地域のネットワーク作りの必要性が語られました。認知症の人も、保育園の壁塗りなど出来ることで地域に貢献するといった具体例が紹介されました。

その後グループに分かれ「今地域で自分ができること」というテーマで意見交換を行いました。予定の時間では足りないほど話が弾み、気負わずに出来ることから始めてみる、体験が大事なのでボランティア登録をしたなどの声がありました。また早めの対応が必要でも、なかなか他人が入り込みにくいとの話があって関わりの難しさが浮き彫りになり、今日の話自治会や地域の人たちに伝えていきたいなどの意見が交わされました。

会場では連絡先を交換した方々もいて、今回のフォーラムが、認知症になってもその人らしく住み慣れた地域の中で暮らしていけるような今後のまちづくりの契機となれればと願っています。そして、当かまくら地域介護支援機構では、今後も介護保険サービスの質の確保や充実を通して、誰にとっても住みやすいまちづくりに取り組んでいきます。

話し合ってみませんか？

“ターミナルケアを考える”

『死』と向き合うことについて

12回目を迎えた医療と福祉のネットワーク会議は、「ターミナルケアを考える」3回シリーズの第1弾として、『死』と向き合うことについてというテーマのもとに、医療・介護・福祉に係わる関係者 約110名が集まりました。

話し合いを始めるにあたって、湘南鎌倉総合病院地域連携室緩和ケア認定看護師の木内薫さんからの基調報告があり、その後10のグループに分かれて熱心に話し合いました。

なぜ今このテーマなのか？

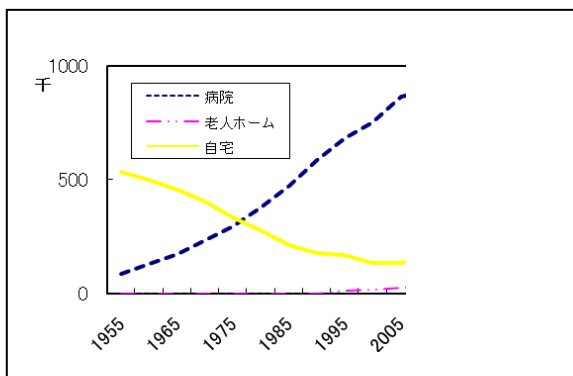
まず第一に日本全体が高齢社会のただ中にあり、とりわけ鎌倉市の高齢化率は25%を上回り、間もなく26%をこえようとしています。一人暮らしや高齢者のみの世帯が増え、家族内で介護を支える力が弱まってきています。第二には国の政策として、病院の機能分化により、ベッド数や在院日数の削減、医療費そのものの削減が進められ、在宅医療の見直しが求められています。そして戦後国民皆保険となり医療制度が充実してきた1976年を境に在宅ではなく病院で亡くなるケースが逆転し、在宅死を知らない世代が介護を行うことが殆どとなりました。未経験の介護に不安や迷いを持つのは当然のことです。このような現状の中でサポートしていくのがまさに在宅サービスに携わる医療・介護・福祉の様々な職種のスタッフ達です。

私たちだって…迷いがいっぱい！

「看取り」だなんて私たちだって初めての経験。家族とどう関わったらいいいのか…。自分の時に何かあったら(死んでしまったら)どうしよう…。もっといい(楽にできる)方法があったのではないかと。「在宅サービスのスタッフ」たちも在宅での看取りの経験は多くはなく、経験がある人も自分の関わり方が本当に良かったかと常に考えてしまうというのが現状です。

皆さんはどこで亡くなりたいですか？

当日の110名の参加者を対象に緊急アンケートをしました。皆さんはどこで亡くなりたいですか？①病院 ⇒ 10数名 ②自宅 ⇒ 10数名 ③自宅で亡くなりたいが実際は無理かもしれない ⇒ 大多数 医療や介護の現場に携わるスタッフにとっても自宅で亡くなりたいという希望はあっても、家族の介護力の問題であったり、病院や施設への依存度が高いという現実が浮き彫りにされました。



語り合しましょう！死と向き合うことについて

仕事での関わり方と自分の身内の場合ではやはり行動や気持ちに異なる面も出てきてしまう。どう関わっていいのかわからなかったり、死を受け止められずに悩んでいる自分が存在し、そんな自分を知り、受け止めることから始まるのではないかと。それぞれの「死」に対する気持ちを自分の言葉で語り合うことは初めてのこと。「死」を語ることは「死」に至るまでを「どう生きるか、生きたいか」を語りあうことでもあった。

最後に！ 多くの方の話が聞けてよかった。何が何でも「在宅での死」が目標ではなく、その方が「在宅での死」を希望した場合に、在宅サービスのスタッフとしてそばにいられる存在でありたいと常に思っている。医療や介護、福祉の現場に携わる私たちの仕事は、私たちが「どうしたい！」ではなく、利用者や家族が「どうしたい！」「どうして欲しい！」と遠慮なく言えるような、相談しやすい関係づくりを大切に、利用者と家族が意味のある人生の最期を経験できるように支援することではないだろうか。

次回は23年秋に開催の予定です！

■ かまくら食支援研究会の取り組み ■

昨年「医療と福祉のネットワーク会議」で食支援について取り上げた成果を基に、食に関わる各職種間で知識や情報を共有し、連携を深めて質の高い適切な支援を提供することを目指して「かまくら食支援研究会」が昨年 10 月に発足しました。歯科医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士、言語聴覚士、介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士など 12 名の発起人が集まり、すでに事例研究を始めています。その取り組みを知っていただきより多くの参加を募るとともに、新たな知識を得る機会にと、この度発足記念講演会が開催されました。

かまくら食支援研究会 発足記念講演会 「嚥下障害と食形態」
講師：管理栄養士 房晴美氏（大阪府河内長野市 青山第二病院）

管理栄養士の房晴美氏は、高齢者の多い病院で、患者の食事作りに取り組まれています。嚥下障害に対応する食事についてや、嚥下の仕組み、嚥下障害患者の栄養管理といったお話を伺いました。増粘剤を使ったとろみ食品やペースト食、ゲル化剤によるムース食や固形化食の基本的な作り方や、とろみをつける場合お茶とジュースでは安定する時間が 40 分も違うので注意が必要なこと、ゼリーは体温で溶けるので、嚥下に時間がかかる人には向かないこと、食塊を喉に送り込む力の弱い人は、ゲル状の塊でも気道に入る危険があることなどが説明されました。また検査データだけを見て患者の状態を見ないことの危険性、栄養剤を換えることによって褥瘡が改善された例、摂食に時間をかけ過ぎないようにする工夫などが紹介され、日々の経験に基づいた言葉には説得力がありました。

在宅での介護は、病院のようにいつでも管理栄養士が関わられる環境ではありません。地域で、専門家による栄養相談が受けられたら、食の改善に大きな力となることがわかりました。

今後、食支援研究会でもそうした体勢を整えることを検討していきます。またアンケートでは、情報提供や研修会開催、またより一層の多職種連携を期待する声が聞かれました。今後支援機構のホームページ上で、様々な食支援に関する情報を公開していきます。



福祉資源ネットワーク委員会 ～鎌倉市の移送を考える～

高齢になると一人で外出することがだんだん難しくなってきます。しかし通院や買い物などで出掛けることは生活する上で、健康を維持するためにも欠かすことのできない活動です。階段や坂のある高台に住む高齢者の多い鎌倉で、移動手段を確保し適切な移送サービスの提供を進めることを目指して、平成 23 年 1 月 28 日「鎌倉市の移送を考える」～移動困難な人々の暮らしの足を支える活動推進のために～という学習会が、関係事業者を集めて開かれました。

移動困難者の実態調査の報告や高齢者の外出を保障するための法整備、鎌倉市の交通計画などが説明されました。

外出ができないとあきらめている高齢者が、必要な時にいつでも対応できる、状況に応じたきめの細かいサービスと十分な情報の提供が求められています。

施設訪問

グループホーム ちいさな手 鎌倉の杜 (山崎 756-2 :平成 21 年 11 月開設 定員 18 名)



山崎地域の中心にある天神山の麓にある瀟洒な2階建ての建物が、昨年11月に開設された、グループホーム「ちいさな手」です。

運営会社は(株)メディカルケアシステムで、横浜市や海老名市について5ヶ所目のホームとなりました。2ユニット、1階は女性9名、2階に男性3名、女性6名、18名の方が生活を共にしています。

「ちいさな手」のために設計された建物は、ガラス窓が大きく開かれて外光が食堂や部屋いっぱいに入ります。訪問されるご家族がゆっくり面談

できるスペースもあり、明るく落ち着いた雰囲気の家です。

近隣の方に、ホームの避難訓練のお手伝いをいただいているそうです。またオカリナの演奏やメイキャップなどのボランティアも訪れています。地域の中でのグループホームとしてご近所付き合いを深めていきたいと、ホーム長の折原さんが語ってくれました。

周辺の歩道が狭いので車椅子の通行が難しく、散歩などの外出が課題となっているとのことでした。入居者の皆さんに、「ここで安心して生活しているという気持ち」を持っていただけるように、スタッフと共に頑張りたいと、最後に折原さんはおっしゃっていました。

かまくら地域介護支援機構のホームページが新しくなります！
<http://www.kamashien.com>

市内の介護関係事業者を検索できます。

ケアマネによるケアプラン作成や通所系サービスの利用が可能かどうかわかります。

事業者専用ページではサービスの質向上のための活動をサポートします。

介護保険の利用について解説します。

イベントや介護サービスに関する最新情報をお知らせします。

介護に関わる様々な悩みを解決するための情報をテーマ毎に紹介します。



介護を必要とする方とそのご家族に、役に立つ情報を提供して安心・安全な生活を応援します。ご意見、ご要望などございましたら是非お寄せ下さい。